聖隷学園報

発行所
学校法人
聖隷学園
浜松市三方原3453
Tel(0534)36-5311
郵便番号433
発行者 長谷川 了
責任者

昭和56年度に向けて

真の看護教育とは…

聖隷の教育を考える

理事長　長谷川　保

今や、善き看護職員だけが要求される時代が来た

——これはすばらしいことである——

昭和四十四年浜松衛生短期大学を開学した当時は、世界中看護婦不足のために、各地で病院や社会福祉施設が病棟閉鎖を余儀なくされていた。聖隷学園はこれを救うために、まず、質より量をと決断して、世界でも最大の看護教育短大を建設したのであった。ナイチンゲール以来誰もしなかったマスプロ看護教育の大冒険を敢えてしたのであった。それから十二年、新潟医大を始め、いくつかの看護教育機関がこれにならい、看護教育は極めて盛んになり、今や、我が国においても看護婦の必要数はほぼ充足することに到り、地方では過剰にさえなる所も多く出て来た。聖隷学園は、これを見通して、既に三年前から量より質へと教育方針を転換したのであるが、今年の如きは聖隷二病院も質の低い看護職員は採用せずとの方針を打ち出している。甘えの時代は既に過ぎ去ったのである。今や、教育される者もするものも本気にならなければならない時が来たのである。これらのことは看護職を志す者にとって幸せなことである。

リフレッシャーコースで講演する長谷川理事長

本来、この地上においても「善なるものは福なるもの」である。看護職の如き、人間の生命に奉仕する職業においては、高度の学問、技術、心において最善が要求されることは言うまでもない。これら三つのものは緊密に一体化して活動しなければ看護の目的を果すことは出来ない。最善なる心、これこそ新約聖書が指し示すアガペイの愛である。敵をも罪人をも愛する愛、まして、病人や傷つき倒れている人を愛する愛、報酬のあるなしを考えないで奉仕する愛、新約聖書ルカによる福音書第十章に記された善きサマリヤ人の物語りにあらわされたこのアガペイの愛を生きる人は、他人を幸福にするのみならず、その人自身が最も幸福な人である。新約聖書の原語であるキリシャ語では幸せを意味する語が二つある。一つはオイダモニヤで、普通に言う幸福と言う意であるが、この語は聖書には一字もない。もう一つはマカリオスである。これは神に祝福されると言う意で、聖書の言う幸せは全部この語である。神に祝福される人こそほんとうに幸福な人である。この世の幸福は忽ちにして崩れる。神から来る幸福は如何なる時にも崩れることはない。過ぎゆくこの世からではなく永遠の神から来るからである。これは聖書を真剣に学ぶ時に与えられる。

理想の看護職は、優れた学問、技術と共に、このアガペイの愛を身につけた心の持ち主でなければならない。善い看護職員への志向、その教育こそ、今の時代になくてはならぬものであり、本学園はそれを志向して、凡ゆる努力をしなければならない。

聖句

「あなたがたの愛が、知識において感覚において、いよいよ増し加わり、何が重要であるかを判別することができ。」

（ピリピ第一章九節）

高度の学問、技術、最善の心で

聖隷学園の歴史 (6)

昭和四〇年高等学校定礎式

三階建の鉄筋校舎完成

前校長　西村　ミサ

しばらく書かなかった間に二年の時が流れた。それは、社会にとっても、聖隷学園にとっても、目くるめく速度での転変の時であった。前回、聖隷准看護学園が閉じられた処まで記した。その舞台であった校舎の名残現武道場が、過日不審火によって全焼し姿を消した。一九四七年（昭二二）旧兵舎の譲渡、四九年（昭二四）竣工、二回の移築、数回の内部改造。多くの人々の愛と労を負い、また多くの人々に仕え、その喜びと悲しみを包みこんで三十年の時を立ちつづけた建物であった。「わたしたちは、見えるものにではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。（二、コリント四・一八）の聖言に耳を傾けたい。

経済成長の波の中で、看護婦志望者は漸減していく。高校進学率が急増する（これの事は喜ばしいことであるが）、一方医療機関の拡充は日とともにせわしい。今、真剣に看護婦養成を考えなければ日本の医療は地に随ちる。長谷川理事長は准看護学園をやめて高等学校設立に踏み切った。教育を担当するものとしてはかねての念願であった。二年前に神奈川県立二俣川高校が衛生看護科実業高校として衆目を浴びて出発している。一年前には沼津市立高校も看護科を設立した。見学をしたり、教えを受けたりしてある程度の見解を持っていた。しかし現実問題としてこれは大変な事である。財政の裏づけ、人材の確保、どうすればいいのかと思っている間に、必要あらば無から有を、との長谷川理事長の決断にだまって従うより仕方なくなっていた。

一九六五年（昭四〇）十一月四日、雨の中で定礎式が行われた。竹本先生はじめ就任予定の二、三の先生も集まった。聖書とともに准看護学園卒業生の名簿を埋めた。それから約半年、県庁に、文部省にと通いながら日に追われる様な毎日を過した。そんな中で長谷川理事長が大患で入院、長谷川氏（現聖隷事業団理事長）が代って責任をとられた。それでも理事長に病室から国会議員の誰彼に依頼の電話などして貰わねばならなかった。こんな中で私もとりあえず校長を引き受けなければならなくなったのである。初代校長には思い切り立派な方をと念願していた私の不本意はもとより、学校のために今でも残念に思っている。

快く狭い応接室を設立準備室にと明け渡すだけでなく、様々な雑用に手を貸して下さった厚生園、この援助なしには設立書類もできなかったであろう。運動場のためには幾世帯かの住宅の立ち退きもあった。こうして出来上った校舎は三方原唯一の鉄筋コンクリート三階建という高層建物であった。（つづく）

高等学校設立時の仮事務所

昭和五六年度 事業方針

専務理事　長谷川　了

第二次五ケ年計画 前半を終えて

聖隷学園の第二次五ケ年計画（昭和五三年度～昭和五七年度）のテーマは「教育事業として自立する」である。聖隷学園は准看養成所、衛生高校、衛生短大と一貫して看護婦の養成に力を注ぎ、聖隷二病院をはじめ関係の福祉施設の看護を卒業生が担うことを期待しつづけてきたが高校を普通科に移行し定員を増やし、短大もまた定員増をした。このことは従来の看護婦養成に加えて、学園が教育活動そのことによって地域社会に巾広く貢献していくことをめざしたからである。具体的な事業としてヘルパー学園の開設、短大に専攻科（助産学）の設置、高校の定員増と国際コースの設置及び米国キャマスとの姉妹校の締結、特別教室棟の建設、学童保育所の開設、聖隷史料室の設置、コミュニティカレッチ部の充実（英会話教室の開講、体育施設の開放）プールの建設を計画したがプールを除くすべての事業が既に実行され、順調に育ち成果を収めつつある。

高校の定員増、短大の学科増等をはかり、更に内部充実をする年と位置づける

さて第二次五ケ年計画後半の昭和五六・五七年度は第三次五ケ年計画（昭和五八～六二年度）で目標になると考えられる高校の定員増とそれに必要な校舎の増築及び校地の確保、短大の学科増または専攻科増（保健婦、養護教諭等）に備えて学園の管理、教育全般にわたる運営システムの整備と機能の充実をはかり教育活動の実力を養う内部充実の年と位置づける。また焼失した武道場をこの期間に再建したい。

法人としては次の二点を重点施策とする。①聖隷福祉事業集団の一員及びキリスト教主義学校として一日の業務や重要な会議を礼拝によって始める。神様からあずかりまかされた仕事を自覚しつつこの習慣の定着に努力する。②数年前から導入されている目標管理の考え方・システムすなわち主体的に目標を設定し計画的に実行し結果をしっかり評価して次の実行に繋げていく、いわゆる計画実行評価のサイクルに沿って自立的に業務を遂行する考え方やシステムが定着しつつある。ライン機能をさらに充実しつつ確実なものとする。

・（高校）多様化した生徒のニーズに応ずるためにコース制度（進学コース・一般コース・国際コース）を導入し生徒の進路目標別に教員がティームを編成し生徒の生活学習進路を総合的に指導してきた結果、成果をあげつつある。教育の充実と定員増は当面、コース制度をさらに推進していくことによって実現すると考える。生徒の特性とニーズを理解し、コース毎に特徴ある教育活動を展開して生徒の進路目標達成のために積極的に援助していく。

・（短大）看護婦は一部地域を除けば過剰となり質を問われる時代が到来したと言える。第二衛生看護科の入学志願者は質量ともに下降傾向が大きい。推薦入試の受験資格をB段階以上とし入試科目に数学を加える等、入試の改善を進めた結果留年学生数の減少、国家試験合格率の大巾上昇と結果した。入学生のレベルアップをさらに推進していくとともに教育の運営システムと分掌を整理する。教務委員長を核に教務・カリキュラム・実習・国試対策の小委員会を結合して総合的に有機的に企画運営する。助産婦専攻科は実習病院と協力して卒業生を後輩の良き指導者に育成し教育環境の充実をはかる。

・（ヘルパー学園）高校とも協力して入学生の増加に努力し、増えつつある福祉施設からのニーズに積極的に答える。

武道場全焼にあたり皆様の御見舞、御援助に深く御礼申し上げます

校長　松本伸吉

四月二十六日（日）午後五時頃本校武道場の器具庫附近から出火し、武道場を全焼しました。日曜日で武道場を一日使用しておらず、火の手を発見したときはすでに手の施しようもない有様で校舎と近隣の病院施設への延焼を食い止めるのが精一杯でした。原因は不明で不審火ということですが、一ケ月前の三月二十七日にも不審火が同じ場所にあり、このときは小火で済み、警戒していた矢先の出来事でした。全焼した建物は本学園で最も古い建造物で昭和二十一年本校の前身である遠州基督学園が設立されたとき、旧陸軍の兵舎を払い下げてもらい校舎としたものです。昼間は教室として夜は生徒の宿舎として日曜日は礼拝堂として使用されてきました。その後准看護婦養成所の時代を経て昭和四十一年衛生看護科高等学校が設立された時、現在地に解体して運ばれ、教室として、また長く講堂としてここで毎朝の礼拝を守り、雨天時は体操場として使用し、昭和五十一年体育館ができてから武道場として使用されてきた思い出のこもった建物でした。

この建物を失い、ここで学んだ卒業生の皆さんに大変申し訳なく思います。また各方面に御迷惑と御心配をおかけしましたことを心からお詫び申し上げます。また出火に際して中学校、私立高校、卒業生、父兄、会社、遠州教会、聖隷社会福祉事業団等、各方面から多大の御見舞いを頂き心から感謝を申し上げます。おかげをもちまして再建の勇気と力を与えられ、直ちにすべての後片付を済ませ新道場の再建委員会を発足させることができました。これは各方面の温い励ましと物心両面の御援助の賜物であり感謝致します。心から御礼を申し上げます。

高校近況

〝姉妹校訪問〟

国際コース三年生十九名が、四月二十四日から、十七日間、米国ワシントン州キャマス、カリフォルニア州サクラメントを訪問。他に、PTA代表二名、スタッフ三名を含み、第一回の交流を成功させた。

――参加メンバーから少しずつ、感想を聞いてみました。――

出発前の心境は

〝心臓は、ドキドキ　足は、ガクガク〟

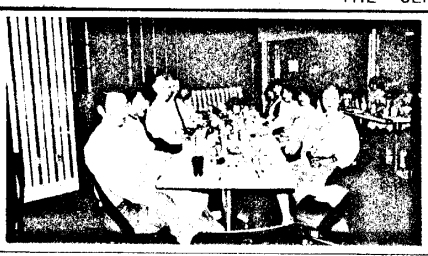
英語が苦手なので、ホームスティをしてホストファミリーの人達とうまくいかなかったらどうしようかと不安でしたが、この際開き直ろうと思いました。（松尾）

アメリカに到着した時

〝アメリカ人ばっかり〟

実感がわかず、本当にアメリカについたのだろうかと思った。しばらくして英語が見え、聞こえ始め、アメリカにいるんだと感じました。（三井）

広くて、のどかな所だと思いました。車の多いことに驚きました。（中津川）



レッドライオンホテルで

ホームスティについて

〝言葉のわからない所は　わらってごまかしました〟

特にキャマスでは、本当の娘のようにかわいがってもらい、あれほど嬉しかったことはなかったくらいでした。（金子）

ホストの人達とあって初めて言葉が通じた時の嬉しさや安心感は、ガンタマン先生に英語が通じた時とはまたひと味違ったものでした。（鷹野）

ホームスティによって本当の英語、本当のアメリカ人の生活に触れ、今まで表面しか見てなかったアメリカの真の姿を、発見したように思います。（石田）

キャマスの高校生は

〝自主的で　積極的である〟

一人一人が自分の考えをしっかりもっていて、それを相手が誰であろうと発言をする。例えば先生が何かを提案したとする。すると生徒がはっきりとそれを否定し、別のものを提案する。生徒が二派に別れて話し合う。又誰かが他の提案をする。やがて数十分後には多数決でやっと決まる。自分の意見が通らなかった時でも、不平を言う人は一人もいない。私も自分の意見がはっきり持てるようになりたい。（花嶋）

現在の心境は

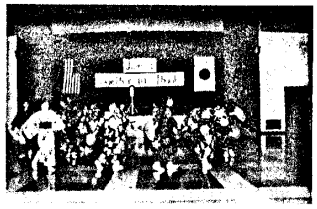
〝ぜひ、もう一度　キャマスを訪れたい〟

チャンスがあったら、もう一度アメリカにいってみたい。その時は自分で計画を立て、自分一人で行ってみたい。（坪井）

アメリカという国を、行く前よりもっと現実的にみることができるようになった。（北村）

私は自分の国である日本についてあまり知らない。日本についての勉強が足りないとつくづく思った。だから今度アメリカへ行く時は、日本のことをもっとよく研究し、アメリカのことも、英会話も一生懸命勉強して、アメリカでできる限り学んできたいと思った。（伊藤八）

国際コース Camas Sacramento 訪問 第1回 ―米国研修旅行―



キャマスでのお別れ会

同伴した父兄の目から

花嶋　一夫

何よりもアメリカ人の心の豊かさに感激しました。国際コースのこの研修に参加でき、しかも英語によって国際感覚を身につけられる事の体験を実際に得、非常に感謝しています。

初めてホストファミリーと対面した時、ホストの方達や生徒のいる前で「マイ・ホビー・イズ・ウー・スタディ・イングリッシュ」と一席ぶって、やんやの喝采を浴びましたが、その時受けた心のさわやかさと、私の英語でも彼らに通じたんだという思いで、喜びが休中にわきあがってきました。

生徒と共に行動して

教諭　赤井伸之

○出発前……生徒が全員無事に帰国できるか心配であった。

○キャマス高校生……とてもののびとしていて、勉強したい者が学んでいるという感じで良かった。

○研修旅行を無事終えて、今の感想は……

今回の研修旅行は成功であったと思う。生徒が若い時に異国を訪問するということは、現在の変化はどうあれ、将来に向けての精神形成上で非常に大きな役目を果たすことと思う。実際生徒達は、アメリカに関する事を現実の問題としてとらえるようになったし、今までのように単なるあこがれとしての存在でなくなった。あとは、日本人としての誇りを常に見失わない人間として、アメリカを訪問してもらえたらと思う。

キャマス教育長 ホスマン博士談 〝聖隷高校生を迎えて〟

二つの学校の初めての経験として、生徒達は将来聖隷学園高校とキャマス高校との間に続いていく好感を私達に与えていきました。

我々は典型的なアメリカ社会のすばらしいところを彼らに与えたと感じています。最高のアメリカの部分を見せたと思っていますし、彼らがこれらの部分を、アメリカの実際の部分としてみてくれることを願っています。

私は、今回の訪問が成功したことに大得意で、これを将来にむけて進歩させ続けていきたいと願っています。

サンフランシスコで

アメリカ研修旅行 日程紹介

4／24(金)　成田発――シャトル
4／24(金)　ポートランド（レッドライオンホテル泊）
4／25(土)　キャマス着
ホストと対面
4／27(月)・28(火)　キャマス高校訪問
4／29(水)　クラウン・ゼラーバック製紙工場見学
さよなら夕食会
4／30(木)　ポートランドOMSI博物館、動物園、ワシントン公園見学
5／1(金)　国立公園散策
5／2(土)　サクラメント着、パーク・ビュー長老会着
5／3(日)　サンフランシスコ着
5／4(月)　金門橋、アルカトラス島等訪問
5／5(火)　カリフォルニア州庁舎見学、サクラメントでさよなら夕食会
5／6(水)　ロスアンゼルス着
5／7(木)　ディズニーランド
5／8(金)　ロスアンゼルス発
5／9(土)　成田着（東京で一泊）
5／10(日)　浜松駅着

※アメリカで心良く私達を受けとめて下さった方々、そしてこの研修の為にいろいろお世話して下さった日本の方々に対し、本当に感謝しています。（34HR生徒一同）

昭和55年度の就職指導を終えて

〝卒業生の昨今と就職指導で思うこと〟

教諭　松井　恵

卒業した生徒たちが、学校に訪ねて来る。皆んな幾分大人になって、仕事の楽しさや苦しみを話してくれる。会社や仕事に慣れて、少しばかり自信もついて来たようだ。在学中は教室で騒がれたり、問題を次々と起こして、さんざん手をやかせたNも、「しっかりやってるでねー。」と胸を張る。もうケンカもしないのだという。仕事は必ずしも楽ではないようだが、社会人になったという自覚が、生徒を少しずつ変えているように思う。

昨年度は、聖隷高校始って以来という多人数の就職希望者があった。一五〇余名の生徒たちは、それぞれの希望に応じ、彼らのめざす職場に散って行った。それも、この地方の企業の好況に支えられてのことであって、そこに問題がないわけでは決してない。むしろ現実に彼等をむかえる環境は、なかなか厳しいのである。

学ぶ意欲に欠ける生徒がいる。はじめからあきらめ、投げだしている。そして非行に走る。はっきりした就職意識を持てないまま、仕事を選ぶ。それも「のれん」で選んでいる場合が多い。したがって半月も立たないうちに離職する者もでてくる。社会に出たという解放感から、事故を起こした者もいると聞くと、心が暗くなる。

私たちは、卒業生の情報に一喜一憂しながら、聖隷人としての自覚を持った人間に育ってくれればと願っている。私たちの力は微々たるものだが、同時にたくされた責任は重く大きい。

就任のあいさつ

〝よろしくお願いします〟

教諭　小田克己

この学園での就任から、早や二カ月余りの日数が経ちました。

着任早々、進学クラスの担任となり、生徒指導に頭を悩まし、その上に、未経験のバレーボール部の顧問として、無我夢中でやってきました。

そろそろこの学園にも慣れ、「新任だから」という言い訳も通用しにくくなってきています。まだ、教師としては半人前です。これからも、一人前の教師になろうと一生懸命に頑張っていくつもりですので、今後とも、皆様の御指導をよろしくお願いいたします。

聖隷学園十五年の歩みとともに

非常勤講師　竹木　栄

……退職にあたって……

昭和四十年十一月の雨の降る日でした。聖隷保養園の方達が傘をさして讃美歌を歌い祈りを共にして下さいました。私も大切にされたものも多くありますが、この頃よく心に浮かぶのは校舎の定礎式です。

高校は建設時代を一応迎え、内容充実に向っていると思います。建学の精神が学校の隅々まで行き渡り、この地における使命が十分に果される事を祈って居ります。

種々の困難な問題に、私達の学校も再三直面しましたが、その都度教師全員で時間をかけて話し合う事が出来ました。

今まで出会った様々の出来事の中には時を経るにつれて記憶の薄れたものも多くあります。

この学園での就任から、早や二カ月余りの日数が経ちました。

着任早々、進学クラスの担任となり、生徒指導に頭を悩まし、その上に、未経験のバレーボール部の顧問として、無我夢中でやってきました。

そろそろこの学園にも慣れ、「新任だから」という言い訳も通用しにくくなってきています。まだ、教師としては半人前です。これからも、一人前の教師になろうと一生懸命に頑張っていくつもりですので、今後とも、皆様の御指導をよろしくお願いいたします。

はじめ出して

講中講師　Janice M. Moore

I am happy to be here at Seirei Gakuen.
I want to share my country with you as well as learn about Japan.
People have been very nice and I want to get acquainted with everyone.

男子バレーボール部コーチ就任 〝バレーボールが恋人?!〟

杉本　正善

ヘルパー学園に入学と同時に、バレーボール部のコーチを引き受け、今までの二カ月間指導をしてきたのだが、自分の高校時代に比べると、聖隷学園の生徒は本当におとなしいと感じるのである。自分達の高校時代は、クラブ活動にせよ、遊びにせよ、自分が正しいと思ったら納得するまでとことんやったものだった。特にバレーボールに対しては、恋人のように錯覚した時さえあった。そんなわけで、自分の高校時代はクラブ活動のついでに勉強をするようなあり様であった。限られた三年間の中で、それだけ夢中になれたことは今思えば充実感として、残っている。

今の生徒にも、指導する中で、「これだけは他人にはゆずれない。」という自信と、「自分がこうだ。」と立てた目的に対してとことん納得するまでやりぬく精神を望みたいのである。

短大・専攻科・ヘルパー

佐々木先生・朝下先生 昭和56年3月聖隷短大退職

――現在は非常勤講師として，引き続き御指導をいただいております――

佐々木先生には，看護教育者として前学科長として長い間，御指導をいただいて参りました

「教学のもつ美しい力強さを見つめて」

前教授　佐々木　ノブ

学園歓送迎会での佐々木先生

昭和四十七年九月，就任間もなく思いがけない病を得，聖隷三方原病院に入院した。ずっと健康だっただけに初めてといってよい程の病苦の中から，新しい土地での看護教育への自分の果すべき使命を発見してはふるい立ったのを思い出す。十月の前に立った私は第一日の・Bed making・から完全に打ちひしがれた。学生は既に自分のやり方が最上と信じていた。つまらないと思うことでゆずらない。「生きた患者さんが入るんですよ!! おすもうさんかも。絶対に左に向けない人だっているのよ」。

私はムキになっていた。「先生は私達に眼をむいた」，当時の学生はそう表現してくれる。

看護技術とは様々な対象にどのように援助していけるかが問題で，それぞれの看護手順の目的は一つでもその過程に幾通りの方法ができてくるのが当然。考える工夫が重要。当時の滝沢主任教授と相談し即時計画変更，グループ研究を加えた。「眼の見えない人への食事介助」，「浮腫のひどい重症者の皮膚のケアー」等。なにしろ百人百色，課題も個性も豊かさにあふれた。期間もオーバーしたが学生達のなんと生き生きしたことか。当時，他の学校に先駆けてVTRを駆使し，また学生自らが考え工夫するための実習室，看護用品の開放，そして視聴覚コーナーの開設等。これも開学間もない困難の中で，学生を愛し，理解し続けてきた教養科の教授陣の暖かい御配慮に，改めて敬愛の念をこめて感謝する。「教師はただ知識の伝道者であるだけでなく模範でもある。教学の中にある美しい力強さを見ることのできない人は，その教学の教科固有の興奮をもって他の人の心に点火できそうにない。」というブルーナーの言葉に，看護者になって四十年余，しかも第一線を退いてなお，脅かされる心境である。

朝下先生は昭和四十九年以来本学のために御尽力下さいました

〝せんだんの花咲く頃〟

前教授　朝　下　忠

あふち咲くそともの木蔭露落ちてさみだれ晴るる風わたるなり　新古今和歌集　夏

「あふち」は栴檀の古名で，楝とも書かれ，五月頃うす紫の房状の花をつける。この歌は季節感があふれ，印象的な歌である。学園の周辺にこのせんだんの木がたくさんあって，教室の窓からも眺められたものであるが，増築のため数少なくなってしまった。落葉喬木なので美しい細葉はやがて散るけれど，小粒の実がたくさんついてみごとである。樹皮は駆虫剤になるくらいだから，この木は虫もつかないよい木である。

私が来任したのは一科認可申請の時で，新築校舎はまだ完成してなかったが，その雑然とした建物の中を，ゆったりと歩きながら案内して下さったのは，佐々木先生であった。先生とは，「ンダネハオライノチャペコハー」などと，よく津軽弁でお話ししたりしたのも懐かしい。着任した時，山程の引越荷物を前にした私が，事務室の方から受けた親切も忘れられない。私は毎朝五キロの運動に出るが，先達は菅野先生であった。先生は名医で俳人で北大卒で，私の郷里に近い角田のご出身で，先生とはよく話のうまが合った。この五月に新著を刊行できたが，着任の頃にも新刊が出たので，不思議な導きを感じる。本といえば，多くの知人に紹介した本は，長谷川保先生の「一夜もひるのように輝く」である。燈台の輝きは，みさかえとなって永遠である。

国家試験結果報告

講師　千葉ヒロ子

昭和五十六年の本学の看護婦国家試験の合格率は九七・五％で，全国平均九八・四％にほぼ一致する。この数字は過去何年か全国平均を下まわる結果に終ってしまったのに比べれば，大変よくなったと云わねばならない。

こうなった理由として，色々考えられると思うが，私は一にも，二にも，学生達が精一杯努力したことにあると思う。そして又，それをささえた看護科教師を中心とする本学の教職員のバックアップと卒業のために必要な単位と，国家試験模擬テストの仕上げをという一石二鳥を試みた総合テストの施行にあった気がする。

合格率を是非とも良くしたいと願い，国試対策プロジェクトができて三年，補講やその他諸々考えられるあらゆる対策を行ったが，思う様な結果が得られず，結局は学生の意欲が大きくなって，はじめて成果があったという事になる。

〈国家試験合格者からの声〉――〝やればできる――短大の先生，教会の方々，そして妻に，感謝します〟

一科卒業生　ヴァン・タン・クワン

日本へ来てから九年，それでも言葉の上で大きな障害がありました。特に不得意な生理学，看護技術学等を克服するために，二冊の家試験模擬テストの仕上げをとおして勉強しました。特に働きながら弁当を作ってくれ，一生懸命励ましてくれた妻と二才になる子供に責任を感じ，夜遅くまで勉強したものです。合格と知らされてから，一回，自分が六十点ギリギリで受かったという悲をみました。現在は三方原病院の脳外科病棟に看護士として勤務しています。

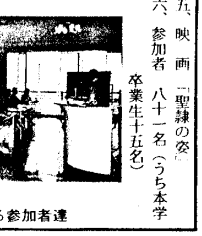
第二回 看護リフレッシャーコース開催について

学科長　柴田敏子

本学は，表記のコースを当番校として開催することになりました。これは，先般，日本私立看護大学協会が実施した会員校の「卒業生動向調査」に基づいて，同協会が会員校の卒業生を対象に主催するものです。今回は二回目で「老人看護」をテーマとして取り上げて今後共学生諸君の増々の努力を願って止まない次第である。

おりますので，聖隷福祉事業集団が全国にさきがけて「老人の医療・福祉」に取り組んで活躍している現状を紹介しながら，今後の老人看護を学習して頂こうと短大の関係職員が協力して準備をすゝめました。その内容は左記のとおりです。

一，開催日時　六月六日（土）十時――十七時
二，場所　厚生会館五階大ホール
三，講演者　長谷川保学長
　　斉藤　武牧師
四，見学場所　十字の園，厚生園
五，映　画　「聖隷の姿」
六，参加者　八十一名（うち本学卒業生十五名）



講演に聞き入る参加者達

新任者あいさつ　生徒との触れ合いを願って

教授　瀬上　豊子

この四月から皆様とご一緒に仲間入りをさせていただくことになりました。よろしくおねがいいたします。

担当の科目は，看護学原論です。昨年まで福井，東京，沼津と，おもに看護学校で仕事をしてきましたが，いずれも小さい規模の学校ばかりでした。こちらの学校の大きいことは以前から知っておりましたが，正直なところ，354号室に溢れんばかりの学生さんを前にした最初の講義のときは，どきまぎしました。数回と回を重ねて只今のところは，張り合いのある緊張感に支えられて，一人でも多く学生さんの顔，そして名前をおぼえねばと余裕もでてきたところです。看護を教える場なるが故に，一人と皆さんとの触れ合いをとねがっています。

「人間はひと茎の草にすぎない。」だが，それは考える葦である。」のことばどおり，特に短大生として一緒に考える動機づけのお手伝いもとねがっています。

学長先生をはじめ造詣深い立派な先生方のおられます学園で，ご指導をいただきながら過せますことのしあわせを感謝しています此頃です。

浜松の住人となり，そして二カ月

助手　山崎すみ江

京都から浜松へ来て早や二カ月たちました。新しい土地と仕事に，初めは緊張の毎日でしたが，皆様の温かい眼差しにどうやら心もほぐれ，本来の自分を少しづつ出せるようになってまいりました。今迄臨床しか経験のない私には，専攻科での仕事は多分に荷が勝ち過きていると思えるのですが，周囲の人々に迷惑をかけつつも，何とか努力を続け，早く一人前の仕事が出来るよう頑張ろうと心に念じている次第です。先日，わずかな期間，一科の母性の外来実習に臨床指導者として勤めさせて頂いたのですが，一生懸命学ぶ学生達の姿を通し，教育に参加できる喜びを味わえ，又，色々と学ぶことが出来ました。今後一日も早く聖隷を理解し，業務に携わっていきたいと思っております。未熟者ですが今後ともどうぞ宜しく御指導下さいますようお願い致します。

五月十一日(月)～十六日(土)　〝ナイチンゲール祭を終えて〟

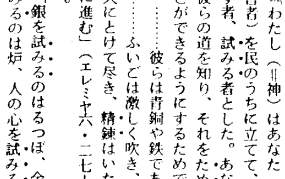
講師　別役　君江

ナイチンゲール祭も今年は八回目を迎えることになった。最近ではナイチンゲール祭を行っている学校は少いと聞く。

ナイチンゲールの真の姿を理解したいという願いから，この行事が本学に取り入れられ，ナイチンゲールに関する資料の展示会と講演が例年続けられている。

昨年までの資料展示は写真が主体であったが，今年は著作集の中から彼女の言葉を選び出して展示するという試みを加えてみた。

ナイチンゲールの言葉の一つ一つが時代を越えて，看護する者の在り方を教えてくれる。変わらないものの意味を一人一人が大切にして追求していきたい。



展示されたナイチンゲールの著作

聖書のことば

「何が重要であるかを判別することができ」

試錬と判別力

教授・牧師　西村　一之

人生は刻々が選択である。人間は向上心をもち，完成を目指すものであるから，分れ道に立って時折，右するか左するか，決断を迫られる。迷う，疑う，ためすなど精神を総動員しながら意志の決定をしなければならないし，その都度，だれも間違いや失敗をしないために努力をする。パウロのことば「何が重要であるかを判別することができ」は右のことを取上げたものである。「判別する」は見分ける・正しく判別することを意味する。

原語のドキマゾーは，たいへん興味深いことばである。試験や検査をして本物であることをたしかめるという語である。もと，鉱物を精錬する意味で使われた。旧約聖書のヘブル語でも同じ意味で使われている。「試みる，ためす，と訳されていることが多く，そのまま精錬すると訳してある例は少ない。次は用例である。

「わたし（＝神）はあなた（＝預言者）を民のうちに立てて，ためす者，試みる者とした。あなたが彼らの道を知り，それをためすことができるようにするためである。……彼らは青銅や鉄であって……ふいごは激しく吹き，鉛は火にとけて尽き，精錬はいたずらに進む」（エレミヤ六・二七―三〇）。

「銀を試みるのはるつぼ，金を試みるのは炉，人の心を試みるのは，るつぼや鉱炉に木炭とまぜられて盛り込まれる。点火されると，ふいごから熱風が吹き込まれて焼かれる。やがて，るつぼや炉の底には銅，銀また金が溶けてたまる。上の方には鉱滓と灰が残る。不純物は取り除き，たまった銅，銀，金をさらにるつぼにいれ，吹き分け，それぞれを分離する。こういう操作をいく度もくりかえし，純度を高めながら，純銅，純金を取り出す。

ユダヤにはソロモン時代（前九六一―九二二），世界最大の銅の精錬所があった。前記の箴言は，ユダヤ人ならだれでも周知のことわざである。人間はだれもが生れたときから，岩のなかに鉱物が含有されているように，その人の固有の使命，可能性が潜在している。ただし，人間は人生というきびしいるつぼに投げ込まれ，打砕かれ，火で焼かれ，溶けて形をくずし，それをいく度もくりかえさなければならない。これが試錬にほかならない。痛さ，苦しさ，つらさを経なくては，だれも自分の本性，使命を見出せない。このようにして，ひとは，人生の道程において「何が重要であるか」を見分け，判別できる能力を身につけることができる。それをくりかえすにつれて，判別力も鋭くなり，また強くなっていく。

学園の現況

事務局長　浅井昭裕

武道場焼失

戸締り、火気注意の強調期間設ける

時のうつろいと共に学園のたたずまいも花から若緑にそして次第にその濃さをまして豊かさを感じさせる。松の緑が年々減っていくのは悔しいが替りに残った樹々の若葉が目につくようになってきた。

そんな緑の季節の中、学園の歴史に痛恨の一頁を加えることになった。武道場の焼失。将に晴天の霹靂であった。学園にとっては単なる木造の建築物ではなかった。

瞬時に消えてしまった武道場を折々ありし日のまゝに想い描いてみる。焼失の傷跡は形としてはもうない、しかしぽっかりあいた空間は何か不安定なものを感じさせる。

これからのめぐり来る四月二十六日はノー・モア人災デーである。

六月一日から十四日まで、戸締りと火気注意の強調期間として防災意識の高揚につとめることとなった。安全は精神面だけでは徹底しないので、安全を確保しやすくするための投資も行っていかねばならない。老朽ガス器具の取替、建物の危険箇所修理、キィロック式ドア、浜松市内局番へ通ずる構内電話の設置、見やすい電話番号表やわかりやすい防災機器の取扱説明の掲示、防災用具の備付けと適当な配置場所について積極的に取組むことになろう。

キャマス高校との国際交流

橋渡し役・アットウェル夫妻帰米

三月二十八日にアットウェル夫妻がアメリカへ帰国された。三年間に亘ってゆうゆうの里を住いとされ、不自由な日本での生活をのりこえて学園とアメリカとの交流に力を尽して下さり国際化へ向けての指針を与えて下さった。

英会話教室を柱にして、コミュニティ・カレッジは多彩に地域へのサービスを行い得る力をもつようになり、姉妹校との交流の輪も広げつつある。

四月二十四日から五月十日まで三四ホームの十九人が姉妹校キャマスハイスクールを訪問して成果を挙げた。この基礎はアットウェル夫妻の力によるものであるが、無形の財産のみならず教職員の研究の糧となる立派な図書をも残して下さった。このような功績にさやかながら報いようと学園では帰国当日の朝、駅へ向う夫妻とウィ・シャル・オーバー・カムを唱った。それは別れというより新しい出発のように思えた。

帰米当日，学園玄関前で

応用実習室・役員室の改造、マイクロバス購入等、教育設備の充実を計る

教育設備の充実を予算に組みこむことはいつも心がけねばならないことであるが五十六年度は応用実習室の改造を実施した。新しく膝動バルブを取付けた流し台、乳児バス、給湯設備を設置し看護実習の充実を期する。

また理事長室と旧校長室を一室として使用できるよう改造された役員室は理事長・専務室とし、小会議にも使用できるゆとりある部屋となった。学園全体の意志疎通の場所として使用されることが多くなろう。

近年、学生・生徒の移動用として使用が多くなったマイクロバスであるが、新車への乗替えが実現して、五月一日納車された。ニッサン〝シビリアン〟という頼もしい車、学生・生徒、来客、教職員に大いに利用していただくことになるが先先の安全を祈る。

専攻科初年度無事終了

五月二十九日、理事会・評議員会が開かれ、五十五年度決算案が承認された。学園の財務内容は徐々に改善の方向に向いつつあり、高校生急増対策、短大、Ⅰ科・Ⅱ科の学生数の変動など新しい事態に対応する礎ができつつある。

五十五年度は、専攻科助産学特別専攻がスタートし、教材実習費、教員人件費の負担力を懸念したのであるが、聖隷事業団の援助を得て初年度を無事終了した。

応用実習室・役員室の改造、マイクロバス購入等、教育設備の充実を計る

昭和55年度

消費収支計算書

自昭和55年4月1日　至昭和56年3月31日

（単位　千円）

消費支出 科目	短大	高校	計	消費収入 科目	短大	高校	計
人件費	243,252	110,681	353,933	学生・生徒納付金収入	212,728	125,208	337,936
教育研究経費	49,202	36,445	84,647	手数料	7,828	1,815	9,643
管理経費	8,563	6,030	14,593	寄付金	36,411	633	37,044
借入金等利息	13,036	10,174	23,210	補助金	123,050	73,658	196,708
法人税等	76	54	130	資産運用収入	3,174	1,050	4,224
資産処分差額	1,653	135	1,788	雑収入	7,324	1,404	8,728
徴収不能額等		430	430	帰属収入計	390,515	203,768	594,283
				基本金組入額	△48,701	△25,614	△74,315
消費支出計	314,782	163,949	478,731	消費収入計	341,814	178,154	519,968
消費収支差額	27,031	14,204	41,235				
施設・設備関係支出	34,610	6,935	41,545				

昭和56年度

消費収支予算書

自昭和56年4月1日　至昭和57年3月31日

（単位　千円）

消費支出 科目	短大	高校	計	消費収入 科目	短大	高校	計
人件費	258,307	119,048	377,355	学生・生徒納付金収入	228,897	119,041	347,938
教育研究経費	59,007	37,645	96,652	手数料	2,865	1,280	4,145
管理経費	13,057	5,985	19,042	寄付金	11,000	5,250	16,250
借入金等利息	9,410	9,018	18,428	補助金	129,000	72,865	201,865
法人税等	47	31	78	資産運用収入	1,500	200	1,700
予備費	2,000	2,000	4,000	雑収入	8,561	200	8,761
				帰属収入計	381,823	198,836	580,659
				基本金組入額	△22,272	△55,937	△78,209
消費支出計	341,828	173,727	515,555	消費収入計	359,551	142,899	502,450
消費収支差額	17,724	△30,828	△13,105				
施設・設備関係支出	11,268	42,050	53,318				

聖隷ホスピス所長として原義雄先生を迎えることになりました

――今年度四月より、聖隷三方原病院顧問として、又、聖隷ホスピス所長として、そして本学園教授として原義雄先生をお迎えすることになりました――

〝就任にあたり〟

教授　原　義雄

今年の四月からホスピス活動のメンバーに加わるために、聖隷に参りました。長谷川会長から聖隷にお招きをうけたとき、「短大で医学概論を担当することを許されるならば」ということを条件の一つとして持ち出させていただきましたところ、御快諾下さり、皆様の御賛同もいただき、比度短大に関係することになって、有難く感謝しているものであります。私は昭和二十六年新潟大学医学部附属看護専門学校で内科学の講義を担当して以来、外遊の期間を除き、ずっと看護婦になる方々のために講義をして参りました。これは私の楽しみでもありました。昭和五十年駒込病院に参りましてからは、また都立荏原病院に在職中も、その附属看護専門学校で医学概論を担当して参りました。医学概論は、医学の本質を論ずる学問であり、そのため医学だけを対象とすることでは不十分で、哲学、社会学などをも包含しています。そして人間論、生命論にもわたり、私が最も興味を抱いている方面であります。と申しますのは、私は都立駒込病院副院長、都立荏原病院院長時代、四年間、昼間は仕事を務め、夜間は毎日神学校に通って神学を勉強し、しかも今回聖隷で、自分が使命と感じるホスピス活動をさせていただくので、このような問題を考え学んできたからです。そしてまた将来私共のホスピス活動に協力していただける看護婦さんになって下さる方が出てはしいという念願をもとめて、この務を感謝と、喜びと、使命感を感じつつ果させていただきたいと願っている次第であります。

どうかよろしく御指導御支援を賜りたくお願い申し上げます。

【福祉医療ヘルパー学園】　秋季生募集

（昭和56年10月～昭和57年3月）

定　　員：30名　男女共学

入学資格：高等学校卒業（見込）したもの。その他，学園長が適当と認めたもの。

・お問い合せは――

聖隷学園浜松衛生短大附属

福祉医療ヘルパー学園

TEL（0534）36-5311まで

	入学試験・合格発表
願書受付期間	8月17日(月)～9月16日(水)
試験日	9月21日(月)
試験科目	1. 作文 2. 面接
合格発表	9月22日(火)

地域への奉仕を目指して

事務局　コミュニティカレッヂ係

四月六日の医療英語講座本年度スタートを皮切りに、中学生向け英語クラス、大人向け英語クラスなど10のクラスが次々と開講されました。今年度四月現在の受講者は、総計百七十名に及び、最近の英会話への関心の高まりを如実に示しています。受講者は、浜松市、細江町を中心にして、中には市外からの申し込みも結構多く、週一回二時間とはいえ、熱心に通っています。

今年は聖隷学園が地域に奉仕できることを真剣に考え、中でも、アメリカ人教員のそれぞれの専門を生かして奉仕しようと、いくつかのショートコースを計画しています。英国ロマン派の詩人、言語学等、特に英語を専門とする人、仕事の上で英語の知識を必要としている人に向けて開講されます。

※　講師紹介……

猿山ふみ子（短大）、トム・ガンタマン、リチャード・マックリーン、ジャニス・モーア（高校）、グエン・ナカモト（短大）

学童保育所・学習クラブ活動報告

学童保育所は四月六日に入所式を行い、現在九人の児童が元気に学習しています。今年の特徴としては、一に英会話を取り入れたことで、行事を利用することもうまくいっていきたいと考えています。英会話には、竹内先生とジャニス先生が指導にあたり、英語かるたに子供達は夢中です。五月十日には奥山へいちご狩りに行き、三十一人の参加がありました。

尚、小学生向けの学習クラブも行われており、算数には、当短大の藤野先生他が指導にあたっています。

※去る四月二十六日に焼失した武道場の再建にあたり、父母の会及び後援会より多額の御寄附を頂きたいへんありがとうございました。六月十二日現在の武道場焼失備品に対する募金状況は左記のとおりです。

六月十二日現在

一、五一五、〇〇〇円

四九二人

学園人事・行事

学園行事経過

〔高校〕

4／8入学式・11開校記念日・13授業開始・24～5／10国際コース米国海外研修旅行・4／28～30中間テスト・30遠足・6／26文化クラブ発表会

〔短大〕

3／8看護婦国家試験（合格率一科95・7％，二科100％）・4／8入学式（入学生，一科100人，二科74人）・4／11～16ナイチンゲール週間・13授業開始・20開学記念日・6／6第二回リフレッシャーコース・22ミネソタ大学マーチンソン女史講演会

〔専攻科〕

3／5助産婦国家試験（合格率100％）・4／8入学式（入学生14人）・10授業開始

〔ヘルパー学園〕

4／1入学式・6／8～施設実習開始

〔その他〕

3／24学園教職員歓送迎会6／1～14施錠徹底期間

学園教職員人事

◎　退　職

ごくろうさまでした

〔事務局〕

1・1　茨城久一郎　教育事務部
1・7　竹輪由美子　学童保育所
4・1　竹内　秀男　経営事務部

〔高校〕

3・31　竹本　栄　教諭
3・31　ベティ・アットウェル　助手
3・31　バーバラ・ヒュースタン　助手B
11・30　尾形三三子　助手
3・31　佐々木ノブ　教授
3・31　朝下　忠　教授
3・31　アルバート・アットウェル　客員教授
3・31　松本　裕子　助手

〔事務局〕

11・22　鈴木　良子　学童保育所
12・31　池上　恵　教育事務部
1・31　加藤　恭子　学童保育所
3・31　芹沢　京子　経営事務部
3・31　牧田　晴美　栄養士

◎　就　職

よろしくお願い致します。

〔高校〕

4・1　ジャニス・モーア　専任講師
4・1　リチャード・マックリーン　専任講師

〔短大〕

4・1　小田　克己　教諭
5・1　今井　光子　養護助教諭
4・1　瀬上　豊子　教授
4・1　原　義雄　教授
4・1　山崎すみ江　助手

〔事務局〕

1・1　茨城久一郎　教育事務部
1・7　竹輪由美子　学童保育所
4・1　竹内　秀男　経営事務部

◎　異　動

11・13　別役　君江　講師
11・13　加藤恵美子　講師
11・13　桜井　文子　助手B
11・13　村上　京子　助手B
4・1　藤野　正之　講師

◎　学長選考

三月三十日開催の理事・評議員会で、長谷川保氏学長決定（任期S56 4／1からS58 3／31まで）

◎　その他

S・55・5・1　滝沢　春枝　名誉教授
S・56・5・29　佐々木ノブ　名誉教授

※　金兵忠雄教授がS・56年度の春の叙勲で勲三等旭日中綬章を受章されました。

◎　理事会及び評議員会（五月開催）で次の方々が理事・評議員に選任されました（任期S・56・7／8からS・58・7／7まで）

〔理事長〕長谷川保・〔専務理事〕長谷川　了・〔理事〕松本伸吉、浅井昭裕、柴田敏子、西村一之、鈴木唯男、原　義雄、中山耕作、鹿内健吉・〔評議員〕長谷川保、松本伸吉、吉田　潤、松井　恵、柴田敏子、浅井昭裕、清水孝俊、上野桂子、杉本　民、牧野すみ江、長谷川了、鈴木唯男、西村一之、大久保良利、鈴木　清、八十浜俊一、佐々木ノブ、猪俣和仁、西村ミサ、長谷川力（監事）、土屋豊年、吉村寿博